

信長や関ヶ原参戦武将の旗印を列举

岐阜信用金庫は7日、戦国時代から江戸初期の武将の旗指物、馬印を描いた一对の屏風「諸将旗指図屏風」を、岐阜関ヶ原古戦場記念館（不破郡関ヶ原町関ヶ原）に寄贈した。同館で式典が開かれ、屏風がお披露目された。

屏風は一つの大きさが高さ94センチ、幅1・85メートル。江戸中期の1700年代に作られたとされ、戦場で武将や自軍の存在を示すのに用いられた旗指物と馬印が描かれている。織田信長や加藤嘉明のほか、関ヶ原の戦いに参加した武将ら

江戸中期の屏風を寄贈 岐阜信金が古戦場記念館に



屏風を鑑賞する光崎修常務理事(左)と小和田哲男館長。＝不破郡関ヶ原町関ヶ原古戦場記念館

80人余りの旗指物、馬印が紹介されており、記念館展示品の関ヶ原合戦図屏風を補完する資料としての価値があるという。同金庫が開館1周年を記念して寄贈した。

式典では、光崎修常務理事が「記念館の魅力の一つ、県民の財産として屏風が受け継がれていけば」とあいさつ。記念館の小和田哲男館長は「目玉展示となる屏風を寄贈してもらい、ありがたい。関ヶ原合戦図屏風を見る時にも有効な資料」と述べ、知事感謝状を贈った。

屏風は1月8日から常設展示する予定。(山本貴史)